

成果の説明書

(氏名)藤井孝宗

(学部)経済

1 重要事項

本年度は、昨年度から引き続き入試担当学部長補佐を拝命し、全学及び学部の入試業務を担当している。入試出題や入試関連業務の業務担当者の決定や、様々な事務業務を担当した。また、2025年度入試から高校の新学習指導要領（新教育課程）に対応した入試制度に変更する必要があるため、新制度の入試の雛形を作成する必要があり、本年度は主にその検討に費やした。入試科目や試験範囲の検討や、試験内容の検討などを学部長や他の入試関連の委員、事務局と連携しておこなった。高校などへのヒアリングも積極的に行い、入試問題作成の方針、特に試験科目、範囲の作成に関しては一定の成果を得た。しかし、具体的な試験の内容などに関しては、2023年度も引き続き検討が必要な難しい問題であると認識している。高校などへのヒアリングの成果も踏まえて検討していきたい。

また、本年度本学の3つのポリシーの改訂をおこなったが、その中でもアドミッション・ポリシーは入試制度と密接に関わっているため、経済学部のポリシー改訂に主体的に関わった。

また同時に、教務関連の業務についても、カリキュラム検討委員会のメンバーとして部分的に関わった。特に、3ポリシーの教務関連分野の改訂には、他の委員と共に議論に参加し、策定に関与した。3ポリシー全ての改訂にある程度関わったため、3つのポリシーの連動性や統一感の確保にある程度貢献できたと考えている。

その他、新課程に関係ない点に関しても、本学の入試に関する課題は複数存在しており、それらの改善、改革についても議論を行った。本年度はまずはその端緒についたばかりといったところであるが、少しずつ改善していきたいと考えている。

教育面では、コロナ禍でしばらく国際学科としての国際交流活動が行えなかったためフラストレーションが溜まっていたが、ようやく本年度より部分的に語学研修、海外フィールドワークやインターンシップ、ボランティアなどの活動が再開され始め、国際学科の本来の形に戻ってきていると安堵している。私のゼミでもようやく海外フィールドワーク研修を再開し、3月にオランダ、ベルギーでの調査旅行を引率した。コロナ禍が続いていたため高校などでの海外経験が全くない学生がほとんどで、実質的に今回が初の海外経験、という学生が多く引率にはかなり気を遣ったが、結果としては学生も満足して楽しんでくれたようであり、有意義なものになったのではないかと考えている。一方、講義の方では、毎年恒例としていた他大学のゼミとの研究発表会（インターゼミ）がここ数年コロナ禍で行えておらず、今年こそ再開したいと思って準備を進めていたもの、私自身の発熱と体調不良で流れてしまうという残念なことがあった。体調の問題なのでどうしようもないとはいえ、頑張って調査し発表準備を行った学生にとっても残念な結果になってしまい、大変落胆している。来年度こそは再開したい。

研究に関しては、本年度は科学研究費基盤研究(c)「海洋資源輸出は資源枯渇を悪化させるか：計量分析に基づく資源保護政策への示唆」の3年目かつ最終年度であったが、結果としては来年度に延長することとなった。理由は完全にコロナ禍のせいで、必要な現地調査が十分にできておらず、また研究成果を報告し批評を受けブラッシュアップを図るための学会報告も全く行えなかった状態の中、内外に示すに足る十分な研究成果をいまだに作成できていないためである。幸いコロナ禍を理由とする研究延長は問題なく認められたため、来年度引き続き研究を行い、成果を積極的に公表していきたい。

2 その他の事項

担当している科目のうち、「市場と経済」という名前の経済学入門科目において、e-Learning 教材を以前より導入しており、IT 技術を使ったアクティブ・ラーニングへの取り組みをおこなっている。

3 次年度以降の計画・抱負

来年度も引き続き経済学部の入試担当学部長補佐になることが決まっており、引き続き入試関連業務に注力したい。特に、2025 年度入試からの高校新学習指導要領に対応した新入試制度の内容策定、特に試験作成に関する方針策定をきっちり行いたいと考えている。同時に、その他の本学入試に関する改善点に関しても少しずつ改訂を始めているので、その点も引き続き進めていきたい。教育に関しては昨年度より再開したゼミにおける海外研修活動をより積極的に進めていきたいと考えている。研究に関しては現在行っている科学研究費研究プロジェクトの1年延長した上での最終年度となるので、研究成果をまとめ学会、論文などで公表していきたいと考えている。